

【数字を読み解く】 89. 3

～大分県の鉱工業生産指数 早い回復、感染拡大前の約95%に～
<2020/12/4 大分合同新聞掲載>

数字は、大分県が公表している「鉱工業指数」にある、9月の当県の生産指数（季節調整済）だ。これは、季節要因や曜日・祝日要因を調整した製造業・鉱業の生産水準を示すもので、基準年（2015年）を100とした指数が毎月公表されている。

当県の鉱工業生産指数は、新型コロナウイルスの拡大を受け、2月から5月にかけて12.9ポイント下落したが、9月には感染症拡大前（2月）の約95%まで回復している。この間、全国の鉱工業生産指数は20.8ポイント下落し、9月時点でも約92%の回復に止まっており、当県の生産水準は全国に比べて下落幅が小さく、回復も早いことが分かる。

当県の鉱工業生産指数を業種別にみると、鉄鋼業、非鉄金属・金属製品工業、輸送機械工業などは感染症拡大下においても全国に比べて堅調に推移している。これらの業種の生産活動が底堅い背景としては、①労働生産性（いわゆる生産効率）が高く、景気悪化局面においても生産調整の対象となりにくいこと、②新しい生産設備を持つ企業が集積していること、③立地上の優位性もあって、世界的な感染症拡大下においても経済成長を続ける中国需要を取り込んでいることなどが挙げられる。

製造業の生産活動の底堅さは、県内企業の受注面のほか、設備投資スタンスや雇用面にもプラスに働いている。大分県の主要産業である製造業が県経済をけん引していくことを期待し、引続き動向を注視していきたい。（日本銀行大分支店）